

まちづくり調査特別委員会記録

令和7年8月18日開催

- 1 日 時 令和7年8月18日(月) 13:59~14:59
- 2 場 所 委員会室
- 3 出席議員 陶久委員長 荒谷副委員長
横田委員 平山委員 金久委員
住友利広委員 喜多委員 下川委員
久米委員 橋本委員 藤本委員
- 4 欠席委員 小野委員
- 5 議 長 湯浅議長
- 6 傍聴議員 佐々木副議長 渡部議員
- 7 出席理事者 西田副市长 平井副市长 東條政策監 篠原政策監
高山保健福祉部長 吉岡都市整備部長 清水保健福祉部理事
清原都市整備部参事 山崎地域共生推進課長 ほか
- 8 事務局 佐坂事務局長 田上議事課長 平瀬課長補佐
- 9 傍聴者 9人
- 10 記者 1人

【 会議の概要 】

議題

(1) 阿南市地域公共交通について

【 13 : 59 開会 】

陶久委員長 皆さん、こんにちは。本日は何かとお忙しい中、お集まりをいただきありがとうございます。定刻より若干早いですけども、ただいまからまちづくり調査特別委員会を開会いたします。本日、徳島新聞社より取材の申し出がございます。これを許可したいと思います。いかがでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

陶久委員長 では、異議なしということですので、そのようにさせていただきます。本日、欠席の届けがありましたのは小野委員、遅刻の届けがありましたのは荒谷副委員長でございます。

では、開会にあたりまして、一言御挨拶を申し上げます。残暑、いまだ厳しい毎日が続きますが、本日は委員各位、副市長、政策監をはじめ、理事者の皆様に御参加をいただき、委員会が開催されますことに感謝いたします。私は、まちづくりということで、とりわけ3つのことが大切と考えております。1つ目は地域公共交通の整備を含む、住み続けられる環境の整備。2つ目は、若者が定住できるまちづくり。3つ目はコミュニティを元気にする住民自治でございます。9月議会を控え、本日の委員会はこれらのテーマへの理解をさらに深められる有意義な機会になるものと確信いたします。最後までどうかよろしく願いいたします。

さて、本日の議題といたしまして、お手元の次第にありますとおり、阿南市地域公共交通について、理事者から説明を受けたいと考えております。そのあと9人の皆様と理事者の関係課を対象に勉強会を行いますので、どうかよろしく願いいたします。

それでは、理事者を代表して副市長から御挨拶をいただきます。平井副市長。

平井副市長 開会に際しまして、理事者を代表いたしまして一言御挨拶をさせていただければと存じます。まずは陶久委員長をはじめ、委員の皆様には何かと御多用のところ、まちづくり調査特別委員会を開催いただきまして誠にありがとうございます。

さて、本日の委員会では、阿南市地域公共交通についてが議題とされているところでございます。地域公共交通は、市民の皆様の日常生活を維持するために不可欠な社会インフラでございますが、利用者の減少や運転手不足など、交通事業者を取り巻く環境は非常に厳しい現状がございます。本市では、こうした現状に対処すべく、阿南市地域公共交通計画に基づきまして、市議会の皆様や有識者、そして地域の皆様の御意見を伺いながら、地域交通の利便性向上や利用促進のため、体系的に各種施策を実施いたしているところでございます。このあと、地域公共交通の現状や課題、本市の実施しております取組に加えまして、国の動向を踏まえた今後の方針について担当課長から説明をさせていただきます。委員の皆様からの御意見を賜りたいと存じますので、どうぞよろ

しくお願いいたします。

なお、休憩を挟みまして、本日は陶久委員長のお取り計らいのもと、勉強会の場が設定され、福井県鯖江市のまちづくりに関する御講演をいただけることとなっていると承知しております。理事者といたしましては、この貴重な機会を生かしてしっかりと知見を広げ、政策につなげてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。以上、御挨拶とさせていただきます。

陶久委員長 ありがとうございました。それでは早速、議題に入ります。

(1) 阿南市地域公共交通について

陶久委員長 では、阿南市地域公共交通について御説明をいただきます。清原都市整備部参事。

【理事者説明 清原 都市整備部参事】

陶久委員長 ありがとうございました。

ただいま資料をもとに説明をいただきました。これから、委員からの御意見や質問などをお受けしたいと思っております。御意見、御質問等はありませんか。

橋本 委員 すいません。あまり勉強できておりませんが、ちょっと教えていただきたいんですが。

高齢者タクシー利用助成事業につきまして、このとき、高齢者のいきいきタクシー券、これ、一部助成をやられてると思うんですけども、このタクシー券に福祉タクシーを配車しとる人がおったら、その福祉タクシーは使うことができないんですか。福祉タクシーっていうのは、ちょっと状況が違うと思うんですけどもね。

阿南市が高齢者タクシー利用の助成事業としてやられてることで、令和5年度には749枚がロスになってますし、令和6年度が1,301枚。これって、500円のうち半分買うんですよ、自分で、買うんですね。その中で余ったタクシー券がたくさんあって困るとるっていう相談があるんですよ。で、福祉タクシーで使えないかっていうことなんですけども。目的が違うんで、福祉タクシーは分かるんですけども、一部、市の助成としたらね、使い勝手のいいような感じの助成事業になりませんかかっていうことで、何かアイデアありませんか。

陶久委員長 山崎地域共生推進課課長。

山崎 課長 橋本委員さんの御質問にお答えいたします。

委員さんがおっしゃいましたように、まず制度が違うっていうところから福祉タクシーのほうではタクシー券が使えないっていう、今の制度でございます。理由としましては、福祉タクシーの利用者は、そもそも通常のタクシーの利用ができない人が福祉タクシーを使うっていうふうなところがございまして、タクシー、高齢者タクシー制度が始まって2年目ではございますが、現状は使えないということで阿南市は運用しております。以上でございます。

陶久委員長 橋本委員。

橋本 委員 そのとおりだと思います。分かっているんですけども。実はね、相談している方は、実際に困るとんは、タクシー呼んでも来ない。もちろん那賀川町は2社あったタクシー会社が全部閉所しとんです。だから何も、タクシーを呼んでも使えない、どこへも行けないような状況で、友達呼んだり、隣の人呼んだりして病院とかそんなところに行ってる方からの相談なんですよ。そのときにも、やはり一部助成があるということで何かの方法がないかなと思ったんですけども。福祉タクシーとなってきたら無理かも分かりませんよね。それは分かりますけれどもね。何か市の助成として、皆さん、困ってる人を助けてあげるっていうふうな状況でお願いしておきたいと思います。また、アイデアください。以上です。

陶久委員長 よろしいですか。他にございませんか。喜多委員。

喜多 委員 タクシーなんですけどね、高齢者タクシー利用助成、これ、金額で決めて、年度内に、前も一度、質問したんですけど、年度内に使い切らなかつたら、もうそれ戻せないんですよ。それだったら、例えばよく障害者割引とか、障害者手帳とかあるように、この条件に当てはまる、所得割が5万円以下、年度によって違うんでしょうけど、そういう何か証明書みたいなものを発行しといて、それをタクシーに乗ったときにも見せていただいたら半額にすると。タクシー事業者からその証明書の、これはどうやってするのか。よく昔は障害者手帳を持っての方はタクシー半額とか、割引してたんですよ。ただ、あまり数がないので、タクシー事業者も、もうめんどくさいのか、実際はタクシー事業者がかぶってたようなところがあります。何かこう、いちいちチケットを戻せないのもあれやし、できたら、何かシステムを変えて、何かそんな感じでもっと使いやすくできないもんかなという感じはするんですけど、どうでしょうか。

陶久委員長 山崎地域共生推進課課長。

山崎 課長 委員さんの御質問にお答えいたします。

まず、制度的に自己負担を2分の1いただくというところから制度が開始されておりまして、そういう本筋にのっとって、窓口で自己負担をいただいて、それからタクシー券を交付しているところでありまして。委員さんのおっしゃっております、証だけで、現場で半額するっていう形を、今、御説明いただいたかなとは思っておりますが、そこは、タクシー会社のほうも煩雑になりますし、かなりの調整が要ると認識しております。以上、御答弁いたします。

陶久委員長 喜多委員。

喜多 委員 ちょっと説明が、僕もよく分かってなかったんですけど、要は、チケットを販売してるわけですから、極端にいったら1年毎のこの所得割をきちんと証明が取れたら、その方には航空割引証とかと同じように何か証を与えて、それをいったら、現場で半額はもちろんその利用者が払うんですけども、元来、その半額をもらった、それをどうせ、このチケットだって市のほうに返してきてるわけですよ。それで差引やっているといるんですけど。むしろ逆にそのシステムが上手くいったほうがデマンドを使えるのかどうか、お年の人が、それ、

スマホは使ってるけど、難しいんでしょうけど。何かもう少し簡便にお互いやり取りができて、もっと。一番の鬼門は買い取ってしまうと戻せないという、これが市なんで、年度単位でやってしまうんで買い戻せない。要するに残ったチケットは困るということなんですね。こういう証明でいったら残らないんですよね、使ったところだけということになるんで。もちろんそれは、そこらんところ、違いはあるんですけど、できたら、高齢者が一番困ってんのはお金がないところで、安くなったのはいいんですけど、残ってしまうと、結局トータル、そのまま使った人と一緒じゃないかという、ちょっと二の足を踏んでしまうと思うんです。で、利用者が減ってるような気がするんで。ちょっと何か御検討いただければと思います。

陶久委員長 要望ですか、質問で。

喜多 委員 御検討いただければ。

陶久委員長 要望でいいですか。では、要望ということで。ほかにございませんか。金久委員。

金久 委員 資料の12ページで御説明がありました経過のところ、令和7年4月から予約受付業務を市に変更した。そして、これ、当然、大潟の路線、予約型乗合タクシー実証運行なんですけど、これは業者さんがされよったわけですけども、それをした理由、簡潔に。

それと、もう一つは、その予約、利用登録方法ってのがいろいろありますし、予約方法ってのがあるんですけど、前日正午までに電話による予約っていうことになる、これ、土曜日受け付けよんですか、市のほうになってきたら。そういうことっていうのは解消したんですかね。そこ、ちょっとお伺いしときたいんですけども。業者さんだったら分かるんですけど、土曜日でも皆、受付、日曜日でもしよんだらうなと思ったりするんですけど。ここにはちょっと詳細がないんで、どういうふう運用しよんしょうかね。ちょっと御説明いただけたらと思います。

陶久委員長 清原都市整備部参事。

清原 参事 金久委員さんの御質問にお答えをさせていただきます。

まず12ページのほうの本年の4月から予約業務、市に変更した理由でございますが、こちら、タクシー会社のほうに予約受付も行っていただいていたんですが、その分の費用も便数に関係なくかかってまいりますので、経費削減の観点から市のほうで受付を行うようにしております。変更いたしました。

あと、予約につきましては、乗車日の前日が休日の場合につきましては、その前の運行日の正午までに予約を行っていただくようなかたちで運用を行っております。以上、御説明とさせていただきます。

陶久委員長 金久委員。

金久 委員 要はこれ、土日はないという感覚でよろしいんですか。そこがちょっと書いてないもんで。結局、受付は平日の月、金まででやっておるということなんです。ね。

陶久委員長 よろしいですか。
そのほか、ございませんか。住友利広委員。

住友利広委員 一つお聞きしたいんですけど、資料の7ページの、国交省、一番下にJR四国牟岐線に関する意見交換会、これ、お聞きしたんですが、那賀、美波、牟岐、海陽町、この意見交換会の内容を分かる範囲でおっしゃっていただけませんかと思います。

それと、全体なんですけど、きれいにまとめていただいて、本当によく分かります。私も分からないところ、これで、料金からいろいろ、本当に御苦労なされたことを感謝しております。ほな、その内容、分かる範囲で教えてください。

陶久委員長 清原都市整備部参事。

清原 参事 清原でございます。住友委員さんの御質問にお答えさせていただきます。

当日、一市四町の首長で国のほうにまいりまして、国交省の鉄道局の担当の方といろいろ意見交換をさせていただきました。説明といたしましては、それぞれの市町で取り組んでおります状況の説明を行ったあと、それぞれの町で、例えば海陽町さんでしたら「DMVを使った利用促進策、なかなか上手くいかないんだ」とかいう話もされておりましたし、本市としましても、駅周辺の開発等について、賑わいづくりに取り組んでいるという説明を行いまして、国の方からは他市の、先進地の、こういう考え方でやっている事例等の説明をいただいたところでございます。以上、御説明とさせていただきます。

陶久委員長 平井副市長。

平井副市長 ほかの説明をさせていただきます。この意見交換会でございますけれども、やはり市民の皆様にとって大切なJR、この路線を何としても残していくんだという思いの中で、従来、この首長トップセミナーのような取組を重ねてきたところでございます。そうした経験を生かしながら、岩佐市長のリーダーシップで一つ、新しい取組として、この霞が関のほうに全員で、定住自立圏を構成するメンバーの皆様でございますので、首長全員でこの霞が関にお伺いして、意見交換をして、共通認識、課題認識、将来に向けての方向性を探っていこうということで機会をいただいたということでございます。以上でございます。

陶久委員長 住友利広委員。

住友利広委員 ありがとうございます。

そこで、JRのほうは赤字路線をもう廃止すると、その後だったんですけどね、阿南から南がどうのこうのっていうことをお聞きしたりしました。いやいや、どうのこうのじゃなしに、廃止に関するのを聞いたりもしよったんですけどね。取組については、先ほど言ったように、なるべく残してくれと、いろんなバスを利用するかそういうお話が出たんだろうと思います。ありがとうございました。終わります。

陶久委員長 ほかにございませんか。喜多委員。

喜多 委員 個々にそれぞれ、本当に困ったところで施策をやっているという

のは御苦労あるかと思えます。だけど、大きな問題は少子高齢化で、本当に人が少なくなっていて、利用者が少なくなっていて、この抜本的な解決策なんていうのはまさに無くなって。そうすると、今、国が推奨している、要するに立地適正化ということで、大きなハブのスポークのように、とりあえず富岡町、ここを、役場があって、真ん中にあるんだから、ここを重点的に機能等集中すると、パイプを持ってくると。で、そこに選択と集中ってよく言われるんですけど、そこを選択している以上、ここの真ん中にJRの駅もあって、次に羽ノ浦の駅が非常によく使われてる。残念ながら以南の新野とか桑野とか少ないと。少ないんだけど、一旦、拠点整備ということで、ネットワークの構築ということで、あのときは加茂谷がなかったんですけど、一応は駅について拠点整備ということで、できましたら、拠点のところにとりあえずこういう乗合タクシー、全部、とりあえず牟岐線の線路をきちんと認識して、そこに時間合わせて、とりあえず拠点整備ということでネットワークの構築を一応考えて、それぞれが困ってるところをただするんじゃなくて、将来の阿南市の、できるだけ富岡に人が来ればそこへ来る人が増えるんで、いろんところ、少しでも利用する。だから、本当の意味で立地適正化をきちんとやって、その各拠点をきちんと分極化するというか、それぞれ小さなハブのスポークにして、そこへ向けてできるだけこういう路線も見ながら配置していくような形で、できたら一旦、新野の駅まで来たら、そこから申し訳ないけど牟岐線に乗って来ていただくとか。それから、加茂谷もそうだし、それを一つ一つ、別々の行動するんじゃなくて、できるだけ有機的に少し考えていただいたらなど。非常に難しいんですけど、できるだけ拠点化整備という考え方で、こういったオンデマンドも何もかもくっつけていっていただきたいなと思えますけども、要望です。

陶久委員長 ほかにございませんか。

藤本 委員 すいません。15ページに課題を5項目、羅列して書いていただいているんですけども、一番下のスクールバスの在り方も含めて一体的に考える必要があるってあるんですけど、今、学校の再編統合が進んでおりまして、ここ5年、10年ぐらいで阿南市内に多くのスクールバスの需要が出てくると思います。それを単体で運営するとなると、またコストも労力もいろいろかかってくると思いますので、ここにも一体的に考える必要があるということで、これから協議していくと思うんですけど。

例えば既存の路線の活用であるとか、別の交通サービスの利用であるとか、そういうことについて教育委員会と都市政策課のほうで協議したとか、していくような予定とか、現状ではどのように考えているかっていうお考えをお聞かせいただければなと思うんですけども。

陶久委員長 清原都市整備部参事。

清原 参事 藤本委員さんからの御質問にお答えをさせていただきます。

スクールバスの在り方も含めて一体的に考える必要があるということで、今、御指摘いただきましたとおり、考え方としてはスクールバスを導入する考えもございますし、今、ある既存のバス路線を利用して対応できるような場合も出てくると思いますので、これまでも教育委員会部局とはいろいろ調整、協議等を担当とは協議を行っておりますので、今後も引き続き調整しながら考えてまいります。以上、御答弁といたします。

陶久委員長 よろしいですか。
そのほか、ございませんか。下川委員。

下川 委員 一つの案なんですけども、この前、徳島市のほうがQRコード決済、P a y P a yを使って市内で買い物をするとポイントを10%還元っていうイベントをしてたんです。コンビニは多分、除外だったと思うんですけども。また、そういうQRコード決済で、ある期間ポイント還元だとか、割引だとか。多分、今の切符を買ってとかだと、その機械自体をいらわないといけないのかなと。そういうQRコード決済だとそのシステムで、簡単にかどうかはちょっと分からないんですけども。そういう期間だけそういうふうな決済ができる、そういう方法があるっていうことがあるので、利用者が少ない中で、そういうところで中学生だとか高校生だとか、まだ免許を持っていない若者たちもなるべく使ってもらえるような、イベントと抱き合わせる期間とかをそういう割引対象にするだとかでPRしていけば、阿南市のイベントに来るときは、徳島駅からのお金を割引だとか、そういうふうなことを、新しいこともちょっと考えていけば利用者も増えるというか、まず知ってもらえるのかなと、阿南にも来てもらえたりだとか。

そういうところで、先日、阿波踊りも電車で行ってきたんですけども、混む時間帯かなと思ったんですけど、それほど利用者もいず、座れる状況だったので、やっぱりせっかく走らしているのが利用者は多いほうがJRさんも利益ありますし、そういう民間とも協力した新しいものを作り出せば、また利用者も増えるのかなというところの、一つの案です。以上です。

陶久委員長 要望でよろしいですか。

下川 委員 要望です。

陶久委員長 ほかにございませんか。久米委員。

久米 委員 予約型の乗り合いタクシーの件なんですけれども、この取組については、われわれとしても会派のほうでかなり以前からも御提言等をしてまいりました。今年の文教の行政視察で八女市を訪れました。以前に私らもその八女市を、この乗り合いタクシーを視察してきたわけなんですけども、やっぱりあそこでは行政とタクシー会社、バス会社が会社を作っています。その中で運営にかかわっております。ですから、今回、新野のやつで市が受付をどうこういうのがありましたけれども、こういうのもしてたら、まあ成立していかないことなんだろうし。

もう一丁、僕が思うのは、阿南市の市民の方々が、ほんまにこの体制についてどれだけの期待をもってるのか、やってほしいのかという、その辺りも、行政と市民がやっぱり合体してやっていくという意識醸成ができない限り、いくら行政頑張っても、その中で成立していくのがなかなか難しいかなと思います。

先ほど、喜多さんも言われてたけども、JRとの関連性についても、乗り合いタクシーの場合はその路線の、その時刻に合わせた予約型なわけなんで、そういうことも考えてやっていけば、何らかの形でまた利用者も増える可能性もあろうかと思っておりますけども、一応、このことについて要望というか、したいと思っております。

それからもう一丁は、タクシーの便が、便数っていうか、非常に、本当に激

減しています。利用するというよりも、先ほど、割引うんぬんじゃなくてタクシーがないんですよね。その辺りもやっぱり補助制度が示されていますけども、その辺り、やっぱりそれが、台数がなければいくら頑張っても運営していかないってところの、やっぱりジレンマもあろうかと思imasので、その辺りも、これはたちごっこも分かりませんが。確かに運転手の方が高齢化しています。若い人の運転手もほとんどいません。ですから、都合のいい時間だけ乗っておられる方も多くおいでますので、利用者側からすれば、本当に不便なタクシーなんですよね。その辺りも踏まえて、もっともっと全体のことを総合的に対策を講じていかなければならないのではないかなと思っておりますので、よろしくお願いします。以上です。

陶久委員長 要望でよろしいですか。お答え要りませんね。
ほかにございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

陶久委員長 では、質問等ないようでございますので、本日の議題は以上でございます。それでは副市長から御挨拶をいただきたいと思imas。平井副市長。

平井副市長 閉会に際しまして、一言、御礼の御挨拶をさしていただきたいと存じます。まずは陶久委員長をはじめ、委員各位には貴重な御時間をいただきまして、そして地域公共交通の在り方や改善策につきまして、さまざまな御意見、御提言をいただきまして、誠にありがとうございました。本日いただきました御意見、御提言を踏まえまして、今後も本市にふさわしい地域公共交通の在り方につきまして、市を挙げて検討いたしまして、実行をしてまいりたいと思imasので、引き続き御指導、御鞭撻を賜りますようお願いを申し上げまして、簡単でございますが、閉会の御挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

陶久委員長 ありがとうございました。

【 14 : 59 閉会 】
